

## 秋の講演会

日時： 2024 年 10 月 25 日(金) 18:30~19:30

場所： 学士会館 2F 202 号室

講師： 河岡義裕先生、国立国際医療研究センター 国際ウイルス感染症研究センター長、東京大学国際高等研究所新世代感染症センター 機構長

演題：『未来を守るためのエマージングウイルス研究』

参加者：； 28 名（現地 12 名、オンライン 16 名）

いつものように北大獣医学部同窓会関東支部との共催で秋の講演会を開催した。今回は、国立国際医療研究センター・国際ウイルス感染症研究センター長の河岡義裕先生(1978 年北海道大学獣医学部卒業・1980 年同大学院修士課程修了)をお招きして、私たちの健康に影響を及ぼすエマージングウイルスやパンデミックを引き起こす可能性のあるウイルスなど、普段は聞く機会のないウイルスのお話を多数ご紹介いただいた。

ウイルス研究は病原体の研究から始まったが、知られているものは氷山の一角で、地球上にはもっと多くのウイルスが存在する。その中でヒトへの感染から顕在化したもの(インフルエンザウイルス、エボラウイルス、新型コロナウイルスなど)をエマージングウイルスと呼ぶ。不顕性のものの中には、ヒトに共生することにより細菌感染を抑える有益なウイルスや、赤潮を消滅させる環境ウイルスなど、病原体ではないウイルスも多数存在する。

インフルエンザウイルスは毎年冬に流行し、時に死亡の原因となるほか、数十年に一度、新たなウイルスが出現し世界的な大流行(パンデミック)を引き起こす。半世紀ほど前に流行した香港風邪・アジア風邪に対する抗体を持たない人口が増えていることから、これらによるパンデミックに備える必要がある。また、高病原性 H5N1 型鳥インフルエンザウイルスが、米国で牛に感染し問題になっている。これは人への感染効率が高い可能性があるため、注意が必要。

いずれも自分たちの生活に関わる可能性のある話題ばかりで、お話に引き込まれた。詳しく知りたい方は、集英社新書「ネオウイルス学」(集英社)をご参照のこと。配布されたウイルス折り紙(<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2022-03-02>)は、大人も楽しめる有用な学習教材であると感じた。

以上